

授業概要

教育相談においては、児童生徒またはその保護者との個別の相談活動に限定することなく、彼らと接するあらゆる機会を捉え、あらゆる教育活動のなかで、教育相談的な配慮をすることが大切となる。

そのために、カウンセリングの基礎を理解し、実践のための技法を習得すること、生徒の発達段階における特性及びその課題を理解したうえで、支援のあり方を学ぶことを目的に講義する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス
第 2 回	教育相談と生徒指導
第 3 回	カウンセリングの基礎理論
第 4 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～傾聴（演習 1）～
第 5 回	教育相談に活かすカウンセリングの基本 ～傾聴（演習 2）～
第 6 回	教員の相談と心理職の相談
第 7 回	保護者との相談の留意点
第 8 回	思春期・青年期の発達課題
第 9 回	いじめ問題の理解と対応
第 10 回	クラス運営に活かす構成的グループエンカウンター
第 11 回	不登校問題の理解と対応
第 12 回	事例研究の方法
第 13 回	発達障害の基礎知識
第 14 回	特別支援教育の実際
第 15 回	チーム学校としての取り組み
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・教育相談に必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や方法に関する基礎的知識を含む)を、身に付けること
- ・生徒の発達の状況、心理的特質、教育課題に即した相談内容について、教員ならではの対応の基本を理解すること
- ・学んだことを、実践に活かせること

履修上の注意

- ・ロールプレイやグループワークを取り入れるため、毎回出席の上、積極的に取り組むこと
- ・毎回プリントを配布するので、専用のファイルを作り、保管すること（提出を求められることがある）
- ・出欠は、毎時確認する。遅刻扱いは、授業開始後 30 分以内、遅刻 3 回で欠席 1 回とする。

予習・復習

予習課題・復習課題が提示される場合があるので、その際は必ず実施すること

評価方法

定期試験（50%）受講態度（30%）提出物（20%）として、総合的に評価する。

テキスト

必要に応じて参考文献を紹介する。

参考資料；『生徒指導提要』（文部科学省）2011